

災害対策、交通安全対策などで質問展開

3月議会の総務常任委員会審査



私が所属する総務常任委員会の議案審査が11日から13日まで行われました。私は、防災、交通安全対策、中山間地対策などで質問しました。

高齢者安全運転支援装置設置補助金は令和4年からスタートしていますが、補助金件数は令和4年度が577件、令和5年度が現在434件で、新年度は500件の申請を見込んで予算計上したとのことでした。高齢者の事故発生件数は大幅に減ったという数字にはなっていませんが、減りつつあることを示すデータもあり、この予算は重要です。

力を込めて訴えたのは**トイレトレーラー**（左下のイラスト）の導入問題です。私は、「能登半島地震の報道を見聞きする中で深刻に受け止めている課題の1つはトイレだ。毎年、どこでも大きな災害発生の可能性があるなかで、トイレトレーラーを多くの自治体を持つことで自治体間の連携、助け合いにもつながる。すでに全国に広がりつつあるが、国の方も導入にあたっては3分の2の補助もある。概算では800万円ほどの持ち出しで実現できる。ぜひ導入を検討してほしい」と訴えました。これにたいして市川部長は、「トイレトレーラーについては、20自治体が全国で展開されてる。私どもも今後その内容等を精査して研究して参りたい」と答えました。

地域独自の予算事業については、実施要綱を議論の中心にすえ、「地域」をどうとらえるか、地域活性化の方向性との関連、「市が直接執行する事業」と「市が地域独自の予算事業補助金を交付する事業」を区別する必要があること（出来なければ1本化すればいい）などについて一問一答方式で聞きました。

地域おこし協力隊員の住居について、「普通の暮らしができるよう、お風呂、台所などの整備」への支援を強化するよう求めました。



【オクチョウジザクラ】（再掲）バラ科の落葉低木。漢字で「奥丁字桜」と書きます。日本海側多雪地帯で春一番に咲く桜です。雪に強く、幹や枝には弾力性があります。花期は3月～4月。すでに上越市内の平場の里山で白い花を咲かせています。写真は3月16日、吉川区代石地内で撮影しました。

市民アクション・じょうえつの「語り合ひのつどい」は、今回は新潟日報の紙面などを使って原稿についての意見広告を出し続けていく「新潟の新しい未来を考える会」の片桐奈保美会長を迎えてのつどいでした。約30人が集まりました。

片桐奈保美さんを迎えて

片桐さんは、「能登半島地震で屋内退避できないことがはっきりした。避難計画がまともでないところは廃炉にするのが当然だ」などのべました。

地域医療に大きな関心

労災病院などの地域医療をどうしたらいいか。直江津学びの交流館で17日行われた上越地域の医療を守る会主催の学習会には120人を超える人たちが集まりました。

No.2150 2024.3.24

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznysg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

はしづめ法一の
活動レポート

春よ来い

第七九七回 衝撃の話の後に

私よりももっと切ない思いをした人がいるってことは頭の中ではわかっていました。でも、目の前の人から突然、そういった話を聞いたときは衝撃でした。

三月中旬のある日の午後四時頃のことです。私は大島区保倉地区のNさん宅の玄関にいました。従兄の嫁さんから、私の最新エッセイ集『春になったら』をNさんに届けるようにと言われて出かけたのです。

あらかじめ、近くに住むY子さんから電話をしてもらっていたので、玄関で声をかけたら、Nさんはすぐに出てきてくださいました。私とは初対面だったのですが、本を手渡すと、Nさんは、まるで久しぶりに会った友人を迎えるような感じでお茶を勧めてくださいました。私のことは従兄などからよく聞いておられたのだと思います。

お茶を出してくださってから、すぐに話が始まりました。Nさんは私のエッセイをよく読んでおられたようで、びっくりするほど私の母のことを覚えておられ、「よく世話をされましたね」とねぎらってくださいました。そのときまでは、Nさんもご両親の介護などで苦労されたに違いないと思いつつ、話を聞いていました。

しかしNさんは、年をとった親たちの面倒を見るところか、早々と自分のご両親を亡くされていたのです。「早々と」と書きましたが、お父さんを亡くされたのはNさんが何と二歳のときであり、お母さんは四歳の時だったということです。これには驚きました。

Nさんが二歳や四歳という年齢なら、おそらく何が起きたかほとんどわからないはず。親はまだ近いうちに出て来るに違いない、と思っていたことと思います。

両親を亡くした幼いNさんは、その後、同じ集落の一番高い場所にあった母親の実家にお世話になったとのことでした。

Nさんは親を亡くしてから苦労は語ら

れませんでした。幼年期の記憶はなく、学校へ通い始めた頃から記憶されているだけなのかも知れません。Nさんは、「学校は小中高と母親の実家から大平まで通った。山間部に住んでいたすけ、大平へ出ると都会に出る感覚だった」と言われました。尾神岳のふもとに住んでいた私は子どもの頃、「原之町は賑やかな町、その先の柿崎の街中は映画館も学校もある都会」そう思っていました。Nさんの感覚も似たようなものだったのでしょうか。

学校時代の思い出を挟んで、「このころ、若い人があちこちで亡くなっている」という話から再び親の話になりました。

ご両親が亡くなった時の年齢はどちらも二八歳だったと聞きました。ご両親が若くして亡くなり、キョウダイもおられないとのこと。Nさんは、「自分はもう親の三倍も生きてきた」と言っておられました。が、ご両親と一緒に時間が短かった分、苦労されていることと思います。

Nさんのご両親について、信じられないような話を聞いたので、私は、出していただいたお菓子などにはまったく手を出す気持になれませんでした。

でも、Nさんの表情はその後、パツと明るくなりました。市内各地で頑張る子どもさんや孫さん、ひ孫さんたちの様子を語り始めてからです。なかでもひ孫さんたちの話になった時は最高の笑顔となりました。

八人のひ孫さんたちが一緒にあった写真が居間の長押（なげし）に飾ってあったので、私が立って、「この子どもたちですか」とその写真に近づくと、Nさんも立ち、説明してくださいました。「この一番前の子どもは五月五日に生まれたがだ。それからこの子は……」。その姿は本当に嬉しそうです。Nさんは現在、八十代前半です。人生は悲しいことの後に、いつか必ず嬉しいことがやって来るんですね。

燠炭アート、石黒からも応援部隊



大島区藤尾でのビックイベント、「はるのしらせ in フジオ」は今年も開催されました。昨年よりも戸数が減るなかで、お隣の石黒（柏崎市）からも応援に駆けつけてもらったイベントとなりましたが、とても良かったです。今年は能登半島の被災地へのメッセージが燠炭アートに盛り込まれました。一時も早い復旧、復興を願う気持ちは参加者共通です。

ニュースフラッシュ

新酒を楽しむ会に160人も

恒例となった吉川観光協会主催の「新酒と料理を楽しむ会」、今年は160人を超える人たちが集い、楽しみました。

第1部は寒さを笑いで吹き飛ばす古今亭ぎん志さんの落語と高倉七虹さんの見事な琴の演奏でした。

第2部は祝宴です。地元の参加者や大島区出身の人たち、中学校の同級生などと酒を飲み、交流しました。普段は酒を飲まない私ですが、今回はしっかり飲みました。

新型コロナに感染したため、私の一般質問は取り下げました。20日には陰性となり、活動を再開しました。ご心配をおかけしました。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016～0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	3月6日(水)	3月20日(水)
上越南消防署	0.057	0.053
上越北消防署	0.053	0.050
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.050	0.057
頸南消防署	0.063	0.060
東頸消防署	0.050	0.047
名立分遣所	0.067	0.057
高士分遣所	0.050	0.047

春よ来い

第七九七回 衝撃の話の後に

私よりももっと切ない思いをした人がいるってことは頭の中ではわかっていました。でも、目の前の人から突然、そういった話を聞いたときは衝撃でした。

三月中旬のある日の午後四時頃のことです。私は大島区保倉地区のNさん宅の玄関にいました。従兄の嫁さんから、私の最新エッセイ集『春になったら』をNさんに届けるようにと言われて出かけたのです。

あらかじめ、近くに住むY子さんから電話をしてもらっていたので、玄関で声をかけたら、Nさんはすぐに出てきてくださいました。私とは初対面だったのですが、本を手渡すと、Nさんは、まるで久しぶりに会った友人を迎えるような感じでお茶を勧めてくださいました。私のことは従兄などからよく聞いておられたのだと思います。

お茶を出してくださってから、すぐに話が始まりました。Nさんは私のエッセイをよく読んでおられたようで、びっくりするほど私の母のことを覚えておられ、「よく世話をされましたね」とねぎらってくださいました。そのときまでは、Nさんもご両親の介護などで苦労されたに違いないと思いつつ、話を聞いていました。

しかしNさんは、年をとった親たちの面倒を見るところか、早々と自分のご両親を亡くされていたのです。「早々と」と書きましたが、お父さんを亡くされたのはNさんが何と二歳のときであり、お母さんは四歳の時だったということです。これには驚きました。

Nさんが二歳や四歳という年齢なら、おそらく何が起きたかほとんどわからないはず。親はまだ近いうちに出て来るに違いない、と思っていたことと思います。

両親を亡くした幼いNさんは、その後、同じ集落の一番高い場所にあった母親の実家にお世話になったとのことでした。

Nさんは親を亡くしてから苦勞は語ら

れませんでした。幼年期の記憶はなく、学校へ通い始めた頃から記憶されているだけなのかも知れません。Nさんは、「学校は小中高と母親の実家から大平まで通った。山間部に住んでいたすけ、大平へ出ると都会に出る感覚だった」と言われました。尾神岳のふもとに住んでいた私は子どもの頃、「原之町は賑やかな町、その先の柿崎の街中は映画館も学校もある都会」そう思っていました。Nさんの感覚も似たようなものだったのでしょうか。

学校時代の思い出を挟んで、「このころ、若い人があちこちで亡くなっている」という話から再び親の話になりました。

ご両親が亡くなった時の年齢はどちらも二八歳だったと聞きました。ご両親が若くして亡くなり、キョウダイもおられないとのこと。Nさんは、「自分はもう親の三倍も生きてきた」と言っておられました。が、ご両親と一緒に時間が短かった分、苦勞されていることと思います。

Nさんのご両親について、信じられないような話を聞いたので、私は、出していただいたお菓子などにはまったく手を出す気持になれませんでした。

でも、Nさんの表情はその後、パツと明るくなりました。市内各地で頑張る子どもさんや孫さん、ひ孫さんたちの様子を語り始めてからです。なかでもひ孫さんたちの話になった時は最高の笑顔となりました。

八人のひ孫さんたちが一緒にあった写真が居間の長押（なげし）に飾ってあったので、私が立って、「この子どもたちですか」とその写真に近づくと、Nさんも立ち、説明してくださいました。「この一番前の子どもは五月五日に生まれたがだ。それからこの子は……」。その姿は本当に嬉しそうです。Nさんは現在、八十代前半です。人生は悲しいことの後に、いつか必ず嬉しいことがやって来るんですね。

今回は何と160人も集いました。落語も琴の演奏もあり、楽しい会でした。



吉中で感動の卒業式

8日、吉川中学校の卒業式に参加してきました。今回卒業するのは28名。入学から卒業まで新型コロナウイルス感染症などでいろいろと困難な学校生活になったと思いますが、元気に巣立ちました。

校長の櫻井直人先生は、「はなむけの言葉」のなかで、「信頼と自信は誰も見ていないところでどう行動するかで決まる」「生きていく上で信頼と自信を持てば大きな力になる」とのべました。そして、最後に原稿から目を離して、「1年間楽しかったです。ありがとう」。この一言、感動でした。卒業生を代表して「巣立ちの言葉」をのべた竹田さんは、3年間の思い出を語ったのち、「素敵な先生方に出会えて幸せです」。これにもグッときました。



新型コロナに感染したため、私の一般質問は取り下げました。20日には陰性となり、活動を再開しました。ご心配をおかけしました。

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016～0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	3月6日(水)	3月20日(水)
上越南消防署	0.057	0.053
上越北消防署	0.053	0.050
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.050	0.057
頸南消防署	0.063	0.060
東頸消防署	0.050	0.047
名立分遣所	0.067	0.057
高士分遣所	0.050	0.047

春よ来い

第七九七回 衝撃の話の後に

私よりももっと切ない思いをした人がいるってことは頭の中ではわかっていました。でも、目の前の人から突然、そういった話を聞いたときは衝撃でした。

三月中旬のある日の午後四時頃のことです。私は大島区保倉地区のNさん宅の玄関にいました。従兄の嫁さんから、私の最新エッセイ集『春になったら』をNさんに届けるようにと言われて出かけたのです。

あらかじめ、近くに住むY子さんから電話をしてもらっていたので、玄関で声をかけたら、Nさんはすぐに出てきてくださいました。私とは初対面だったのですが、本を手渡すと、Nさんは、まるで久しぶりに会った友人を迎えるような感じでお茶を勧めてくださいました。私のことは従兄などからよく聞いておられたのだと思います。

お茶を出してくださってから、すぐに話が始まりました。Nさんは私のエッセイをよく読んでおられたようで、びっくりするほど私の母のことを覚えておられ、「よく世話をされましたね」とねぎらってくださいました。そのときまでは、Nさんもご両親の介護などで苦労されたに違いないと思いつつ、話を聞いていました。

しかしNさんは、年をとった親たちの面倒を見るところか、早々と自分のご両親を亡くされていたのです。「早々と」と書きましたが、お父さんを亡くされたのはNさんが何と二歳のときであり、お母さんは四歳の時だったということです。これには驚きました。

Nさんが二歳や四歳という年齢なら、おそらく何が起きたかほとんどわからないはず。親はまだ近いうちに出て来るに違いない、と思っていたことと思います。

両親を亡くした幼いNさんは、その後、同じ集落の一番高い場所にあった母親の実家にお世話になったとのことでした。

Nさんは親を亡くしてから苦労は語ら

れませんでした。幼年期の記憶はなく、学校へ通い始めた頃から記憶されているだけなのかも知れません。Nさんは、「学校は小中高と母親の実家から大平まで通った。山間部に住んでいたすけ、大平へ出ると都会に出る感覚だった」と言われました。尾神岳のふもとに住んでいた私は子どもの頃、「原之町は賑やかな町、その先の柿崎の街中は映画館も学校もある都会」そう思っていました。Nさんの感覚も似たようなものだったのでしょうか。

学校時代の思い出を挟んで、「このころ、若い人があちこちで亡くなっている」という話から再び親の話になりました。

ご両親が亡くなった時の年齢はどちらも二八歳だったと聞きました。ご両親が若くして亡くなり、キョウダイもおられないとのこと。Nさんは、「自分はもう親の三倍も生きてきた」と言っておられました。が、ご両親と一緒に時間が短かった分、苦労されていることと思います。

Nさんのご両親について、信じられないような話を聞いたので、私は、出していただいたお菓子などにはまったく手を出す気持になれませんでした。

でも、Nさんの表情はその後、パツと明るくなりました。市内各地で頑張る子どもさんや孫さん、ひ孫さんたちの様子を語り始めてからです。なかでもひ孫さんたちの話になった時は最高の笑顔となりました。

八人のひ孫さんたちが一緒にあった写真が居間の長押（なげし）に飾ってあったので、私が立って、「この子どもたちですか」とその写真に近づくと、Nさんも立ち、説明してくださいました。「この一番前の子どもは五月五日に生まれたがだ。それからこの子は……」。その姿は本当に嬉しそうです。Nさんは現在、八十代前半です。人生は悲しいことの後に、いつか必ず嬉しいことがやって来るんですね。

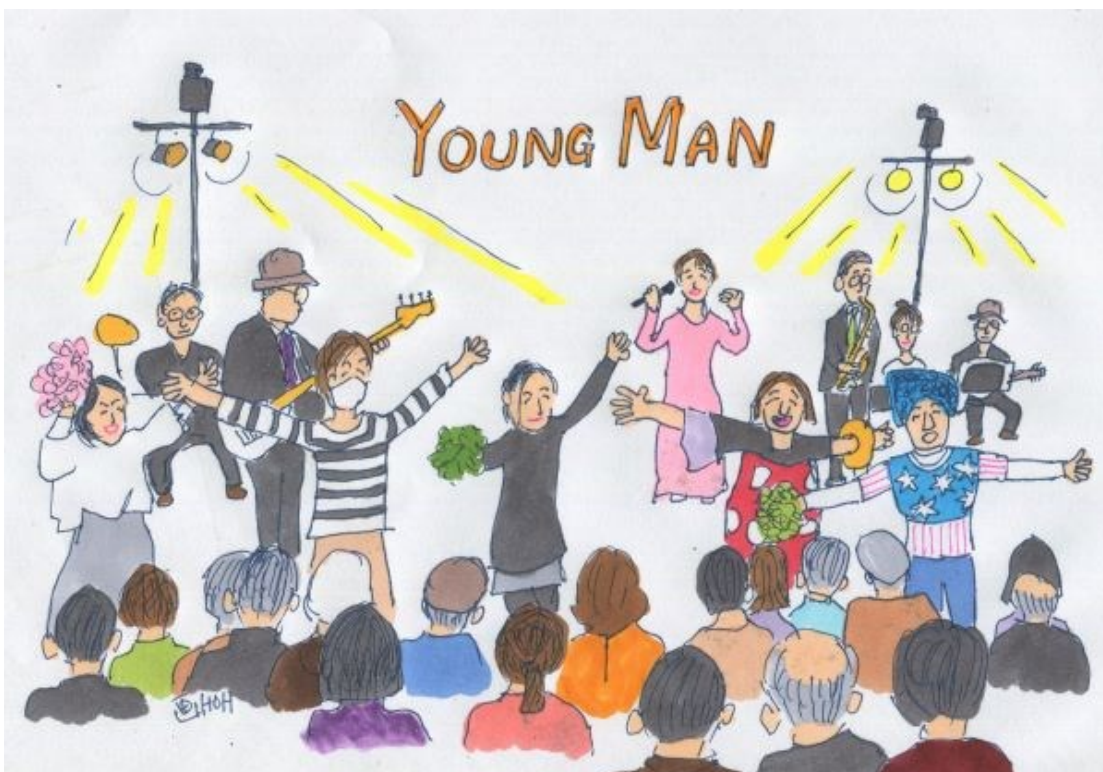
歌って踊って能登半島地震被災地支援

20日、柿崎コミプラの4階ホールはものすごい熱気でした。頸北のコミュニティバンド、「ピアス」（代表内山雅子さん）が能登半島地震被災地支援のコンサートを開催したのです。

コンサートでは「早春賦」からはじまって懐かしの歌が次々と歌われました。今回はパーカッションで内山代表の娘さんが素敵な演奏を披露、また上越の踊りの名手、西脇さんなどが楽しい踊りで共演し、盛り上げました。義援金は14万円ほど集まり、石川県に送金されました。



今回は何と160人も集いました。落語も琴の演奏もあり、楽しい会でした。



新型コロナに感染したため、私の一般質問は取り下げました。20日には陰性となり、活動を再開しました。ご心配をおかけしました。

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	3月6日(水)	3月20日(水)
上越南消防署	0.057	0.053
上越北消防署	0.053	0.050
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.050	0.057
頸南消防署	0.063	0.060
東頸消防署	0.050	0.047
名立分遣所	0.067	0.057
高士分遣所	0.050	0.047